

## 秋の味覚「利府梨」

毎年、秋になると果物がおいしい季節になる。利府梨は気候風土の関係から、品質・味覚の点においても好評で全国的にも有名である。

利府街道と呼ばれる県道沿いには、8月下旬から11月上旬まで梨の直売所が60箇所ほど設けられ主にドライバー向けに販売している。



10月2日に利府梨まつりが開催され大勢の参加者を得て、梨の直売や採れたての野菜の販売、梨の種飛ばし大会、皮むき大会など楽しいゲームを行った。

また、直売所で梨を買った方は、まつり会場で抽選に参加して農産物の商品を受け取った。



利府町に梨が栽培されたのは、今から約130年前に地元の農業者の日野さんが20aの水田を畑に換え150本の梨の苗木を植えたのが始まりだ。

昭和30年代の最盛期には、280戸の梨農家が5.5haを栽培し、市場へ出荷していた。

昭和48年に町内の主要県道仙台松島線のバイパス道路の開通を機会に沿線各所に梨の直売所が設けられたのが始まりで、現在、生産量の約5割近くが販売されている。

今では農業者の高齢化や担い手不足のため、梨農家は74戸まで減少し2.2haを栽培している。梨の品種としては、古くから「長十郎梨」が有名ですが、現在は新品種「あきづき梨」の栽培面積を広げ、次世代の梨としてブランド化を進めている。

これからも、利府梨振興や販路拡大に努め、梨農家の担い手が育つことを期待している。